

目 次

巻頭のごあいさつ	所長 谷 口 武 男
グラビア	

第1編 研究所の概要

1-1 沿 革	1
1-2 組織および分掌事務	2

第2編 業務報告

1. 建設技術センターの業務報告	3
1-1 平成6年度材料試験の実績および業務の概要	3
(1) 年度別試験実施状況調べ	3
(2) 材料試験月別集計表（平成6年度嶺北分）	4
(3) 材料試験月別集計表（平成6年度嶺南分）	5
1-2 土木技術職員等の研修について	6
1-3 技術開発業務の実績報告	11
2. 雪対策技術センターの業務報告	12

第3編 調査研究の報告

● 高強度透水コンクリートの開発について (2)	酒井・石田 15
● 高強度透水コンクリート試験施工について (2)	酒井・杉森 21
● 緑化ブロック製品の研究・開発について (2)	幅岸・宮本・林田・堀江・山口・松山 25
● 排水性舗装の試験施工と追跡調査について (2)	小寺・杉森・深川 29
● 凍結防止舗装の試験施工について (2)	深川・杉森 35
● 蓄熱剤格納による路面凍結緩和の実験的研究	宮本 39
● 舗装の熱拡散率の逆解析	宮本 53
● 路面凍結センサーの設置試験観測(その1)	宮本・杉森 55
● 高熱伝導アスファルト試験舗装(3)について	幅岸・杉森 61
● 防雪型視線誘導標の開発	酒井・小林 63
● 地震防災としての消雪井戸の利用について	宮本 65

第4編 技術資料

1. 職務発明等関係一覧表	69
2. 雪対策技術センターで開発した新工法カタログ	72
3. 新工法の施工実績	78

巻頭のごあいさつ

21世紀を目前にひかえ、わが国の高度化多様化はますます進展し、土木行政におきましてもこれまで以上に豊かさとゆとりを実感できる地域社会づくりが求められているといえます。

また、折しも本年1月に発生した阪神大震災は、わが国が豊かで美しい自然に恵まれている反面、常日頃から地震をはじめ洪水、地滑り、降雪など様々な自然災害に対峙していることを忘れてはならないという大きな教訓を残したといえます。

このようなことを背景に、本県の持つ自然、地勢、風土等の地域特性を生かし真に豊かな地域づくりを推進するため、また本県に適した独自の雪対策技術および建設技術の各分野における開発研究をさらに積極的に推進するために、福井県雪対策・建設技術研究所が設置されました。これまでの建設技術センターと雪対策技術センターは研究所として発展的に解消されたわけであります。これまで各方面から多大の御支援をいただき、少なからず実績を残すことができましたことに対し、心から厚くお礼申し上げる次第であります。

この年報は建設技術センターならびに雪対策技術センターの平成6年度業務内容を取りまとめたものであります。センターとして最後の年報であり、御高覧くだされば幸いに存じます。今後は、研究所として活動していくこととなりますが、関係各位におかれましては、今後とも引き続き御支援御協力を賜りますことをお願い致しまして巻頭の御挨拶といたします。

平成7年8月

福井県雪対策・建設技術研究所

所長 谷口武男